

令和 6 年度 事業報告

(1) 地域コミュニティ事業

①草加モデルへの対応

生活クラブ・生活クラブ草加支部・ワーカーズひまわり・CCS とで進めている草加モデルに対し、CCS として積極的に関わり住民参加型の地域福祉が根付くよう地域に必要な機能を創り出す一環として配食事業の取組みに協力し、25 年 4 月 1 日から労働者協働組合旬の協力の基に配食事業が立ち上がりました。これに伴いわ〜くわっく草加では利用者の昼食を労働者協働組合旬に依頼することになりました。

②福祉ワーカーズとの取組み

福祉ワーカーズとの協議会を模索し、中間支援組織としての力が発揮できる取組みをめざしましたが実現ができていません。

2024 年 4 月から 3 年に 1 度ある介護保険制度の改定があり、介護で働く人が不足しているにもかかわらず、政権は訪問介護の報酬を切り下げるという暴挙に出ています。このことは、社会で対応して行く介護保険制度にもかかわらず、家で対応しろという方向に舵を切ったのではないかと思います。このままでは介護難民が発生する事が予想され、「住まいでの暮らしを支える」事を運営理念としている CCS としては介護保険事業への参入条件が緩やかな総合事業の通所 A 及び訪問 A に積極的にかかわり、生活クラブ組合員・地域住民と事業をすすめる必要があります。現状では難しい状況にありますが今後の課題として解決を図ります。

また、今後さらに高齢者が増えていき、家族構成や暮らし方、価値観の変化に伴って単身高齢者や身寄りのない方、親族に頼れない・頼らない方や認知症の方が増えていくと思われそれに伴って必要度が高まっていく終末期サポート事業への参入についても同様です。

③自分らしい老い支度に関する取り組み

- ・老後の様々な不安や手続きを自身が事前に準備することで「最期まで地域の中で自分らしく生きる社会」づくりに向け、「最期まで地域の中で自分らしく生きる社会」に向けた仕組みづくりとして「老い支度について話そう会」を生活クラブ生活館を利用し草加・狭山で開催する事ができました。
- ・また、終末期サポート事業の担い手としてスタッフ養成講座を開催し 12 名の新たな担い手が声を上げてくれました。

（３）会員団体支援・サポート事業

ワーカーズの公的制度事業（介護保険事業・総合事業）への参入に関しての依頼はありません。

（４）講座事業

①地域福祉（人材養成も含む）講座・研修

- ・生活クラブ群馬に「終末期サポート事業」の事業化までの経緯や内容を紹介しました。
- ・生活クラブ埼玉で「CCS 版託児ケア者養成講座」を開催しました。
- ・児童養護施設埼玉育児院で「ほめほめ子育てトレーニング講座」を活用し新人研修を行いました（参加者 67 名）
- ・児童養護施設埼玉育児院で「ほめほめ子育てトレーニング講座」を活用し 2 年次研修を行いました（参加者 4 名）
- ・「ほめ＊ほめ子育てトレーニング」の「テキスト」「レジюме」を参加者のニーズに寄り添う内容を積極的に取り入れ全面改訂を行いました。
- ・「ほめ＊ほめ子育てトレーニング」の「学齢期版」の開発は行えませんでした。
- ・社会問題・会員団体等のニーズを把握し、地域福祉に関する講座・研修等に取り組むため埼玉県職業能力訓練センター主催の「レジリエンス」講座「アンガーマネジメント」講座「アサーション」講座、に参加しました。また、「さいたま市市民後見人養成講座」を受講し修了しました。
- ・「福祉講座」のコーディネート機能を高め、外部向けの講座も含め積極的に取り組むため江東区主催「江東ハッピートレーニング講座」に取組ました。
- ・「終末期サポート事業」のスタッフ養成講座を行い、草加会場（参加者：10 名）、狭山会場（参加者：20 名）そのうち 12 名がスタッフとして活躍しています。

②介護保険事業を担う人材養成講座・研修

- ・CCS の研修制度により、基礎研修をお茶の水ケアサービス学院のソフトを使用し、効率に事業所で行っています。
- ・運転技術研修（4 名）認知症基礎研修（1 名）防火防災研修（1 名）認知者介護実践研修（1 名）が受講しました。

③講師派遣（ZOOM による講師派遣を含む）

- ・残念ながら NP プログラム本講座は開催することができませんでした。
- ・孤立しがちな子育て世代を支援するために以下の講座を開催するとともに、地域への講師派遣（ZOOM 開催を含む）を行いました。
NP プログラム体験講座（参加者：2 名）
ほめ＊ほめ子育てトレーニングの本講座・体験講座の講師派遣
埼玉育児医院：「ほめ＊ほめ子育てトレーニング」（参加者：71 名）
本庄支部：「ほめ＊ほめ子育てトレーニング」（参加者：36 名）
江東区：江東区子ども家庭支援センター（3 か所）
「江東ハッピー子育てトレーニング」（参加者：168 名）
- ・CCS 登録講師の子育て関連「できる講座リスト」による以下の講座について講師派遣を行いました。
大宮ブロック：「託児サポーター養成講座」（参加者：9 名）
大宮ブロック：「思春期の子を持つ親のための講座」（参加者：6 名）
- ・認知症や高齢期の人に関わる周囲の人が正しい理解と見守りができるよう終末期サポートに対する理解・啓発活動のための以下の活動を行いました。
終末期サポートスタッフ養成講座（参加者：20 名うちスタッフ登録 12 名）
生活クラブ群馬：「終末期サポート事業について」（参加者：8 名）
- ・家庭内介護などのニーズに対し、「介護技術講習会（連続企画も含む）」「介護保険学習会講座」「ユニバーサル食講座」等の講師派遣の依頼はありませんでした。

（５）公的制度活用事業

- ・運営理念「住まいでの暮らしを支える」を具体化するための自立支援プログラムの取り組みについて、利用者の選択と参加の機会を増やすプログラムの開発、対応を進めました。
- ・通所介護事業では、草加・狭山の両拠点ともに目標を下回り、経営は単年度赤字になりました。定員 25 名で平均利用者数目標 20 名/日利用に対して平均利用者狭山 17.8 名・草加 14.9 名、稼働率としては目標 80%に対して狭山 71%・草加 60%となっています。広報活動取り組みの不足が顕著に結果に表れました。利用率を伸長し、経営改善が喫緊の課題です。両事業所ともに職員不足を解消するとともに人員配置の適正化が課題です。また、運営方法を確立し各種加算（個別機能訓練加算Ⅰ（ロ）、口腔機能向上加算、ADL 維持加算等）算定による取り組みを実施し、収入改善に取り組む必要があります。業務の効率化・合理化を目的とした ICT 推進が進みました。
- ・利用計画に対する人員配置が適正に行われなかった結果、処遇改善加算を原資とした資格手当が原資のみでは賄えず、介護報酬本体から大幅に拠出され人件費の増加及び・赤字要因の一つになっています。人員配置ルールの適正化を図ること、今後の評価制度の在り方・見直しについて検討が必要です。

- ・居宅介護支援事業では、草加・狭山の両拠点との目標を下回り、経営状況においても単年度赤字になりました。狭山 3 人・草加 2 名体制を目指しましたが、各拠点ともに 1 名不足により計画に対する人員が充足できませんでした。引き続き採用対応を進め、介護報酬加算（特定事業所加算）算定による収入改善を進めていく必要があります。ICT 推進を進めました。
- ・月次の進捗点検と評価制度により能力アップ、モチベーションの向上、労働環境の整備・改善、目標設定による運営進捗管理をすすめました。
- ・「生活クラブ 10 の基本ケア」の理念と技術について学んだ技術を、リーダーを中心とした事業所内での研修の体系化を進め、自立支援ケアと介護・相談技術の質を高める取り組みを両拠点の通所介護事業で進めましたが、狭山は対象職員に習得研修を進めていますが、定着までは至っていません。草加に関しては伝達研修のみでその後未着手です。
- ・居宅介護支援事業からの地域づくりに取り組みます。
 - 生活クラブ生協組合員対象に、認知症の当事者の方とともに講演会、草加モデルでの実践事例「草加生活館での取り組み」について報告しました。
 - 草加生活館においては、ワーカーズコレクティブひまわりが主催するオレンジカフェを相談担当者としての役割で参加及び支援しました。
 - 狭山・草加の居宅介護支援事業においては、毎月 1 回相談会を開催しました。
- ・認知症に対する個々の知識・技術の向上、事業所の対応力を向上によるケアを高め、地域に貢献するために認知症実践者研修・認知症実践リーダー研修・認知症介護指導者の受講をすすめました。
- ・事業所・法人が一体となり法令順守のもとに行動しました。法人内においてハラスメント対応窓口を設置しました。
- ・災害に備えた計画を訓練や見直し含め、事業所のある生活クラブ生協と連携して進めました。各拠点ごとに BCP 計画を策定し、研修・訓練を実施しました。
- ・公的制度活用事業を通じて生活クラブ生協や地域住民、関連団体等個人・団体との関係を作り、深めました。狭山生活館協議会、草加モデル、草加支部委員会へ参加し関係団体と拠点を中心とした地域の課題について、話し合いを行いました。
- ・住まいでの生活を支援するために、現行の資源（ヒト・モノ・カネ）を有効活用し、必要な機能を検討して事業の複合化をめざしましたが、具体的な取り組み・進捗はありませんでした。
- ・現在の狭山・草加のワーカーズコレクティブとの関係や法人内の実務に関する見直し・検討が必要です。

① ワーカーズの方針

⇒狭山

- ・編み物サークルが人気となり利用者がそれを目当てに集まるようになり、ご自分の物のみならず、様々な作品をデイサービス内売店や生活館のマルシェ

で販売し制作する利用者の意欲向上につながりました。

- ・調理プログラムは実施数を増やし、買い物プログラムにて利用者の生活を実質的に支えることができました。またお料理研究会は、利用者に献立を考えていただき、次の週に調理して持ち帰り、料理することの楽しさを感じていただくことができました。
- ・昼食づくりの実施数を月 4 回より 5 回に増やしました。
- ・室内スポーツプログラムとして、モルック・パターゴルフ・ソフトサッカー・いかのぱたぱたなど実施数を増やし冬季の間も身体を動かし元気に活動しました。
- ・口腔機能訓練として開始した美顔プログラムにおいては、近くの保育園の子供たちに布芝居の読み聞かせをして楽しませることを利用者自身が経験することに発展できました。
- ・生活クラブ支部の調査より市民の要望にあった駄菓子屋を、利用者の協力で実施し子供たちも利用者もふれあいと金銭授受などの機能訓練の機会となりました。
- ・1 日型に加えて半日型のデイサービスを併設することはできませんでしたが、狭山市地域包括支援センターから一定の評価をいただき利用者紹介により 1 日平均 20.5 名まで利用数を向上できました。
- ・居宅支援事業は介護支援専門員は 2 名にて、定員まで利用者数を伸ばしています。

⇒草加

- ・持続可能な運営を行うためスタッフの求人と定着を最優先事項として進めたが、達成できなかった。デイホームでは常勤 1 名の入職あったが 8 名の退職（内 4 名調理スタッフ）がありスタッフ不足が益々危機的な状態となっており、介護短期バイトを使用し凌いでいる現状となっている。また求人では面接まで進んだが組織の分かりづらさや将来的な仕事内容に不安を感じての辞退者が複数あった。多様なサービスとして取り組んでいる訪問 A も現スタッフは忙しく新規を受けられない状況となっている。
- ・ご利用者の「やりたいをカタチに」や利用者の主体性を発揮するプログラムやレクリエーションでは、遊びリテーションの「テーブルピンポン」が人気で楽しみにされている方も多く、達成度が高い。狭山で実施されている脳トレゲームを草加でも始めたところ、同席の方々と協力する場面や活発な会話が生まれている。ボランティアさんによる趣味活動も楽しみにされている方が多い。
- ・業務効率化のため、ICT をフロアに導入したことで、スタッフがタブレットを見る時間が増え、利用者への見守りに課題がある。利用者の席で入力していくことを進めていく。
- ・営業活動は CCS 協力のもと草加市内の居宅、包括回りを行った。相談員が継続し

て利用者の情報を届けながら営業活動を行っている。今まで取引のない居宅からも問い合わせがあり成果が出ている。生活支援サポートは日程が合わず行っていない。

- ・地域とのつながりは現状維持している（チャヴィペルト、ファミリーマート、カフェコンバージョン、草加小学校）、新たな関係性作りで近隣の通所 B へ訪問したが関係を築くことはできなかった。
- ・スタッフの研修は法定研修や BCP 研修、水防法研修などを実施した（14 種類 18 回実施）。また運転適性診断を 4 名が実施した。
- ・年初のスタッフ不足から新規の利用者を制限したことが今年度の利用者数が減った大きな要因と思われる。

（６）調査研究・広報宣伝事業

- ①CCS や会員団体の活動について、地域社会への広報をすすめていますが、反応はありません。
- ②ホームページや SNS で CCS の活動がわかりやすく、魅力が伝わるように工夫し、口コミや紹介につながるよう、携帯版ホームページを立ち上げました。

（７）団体との交流、連携および協力事業

- ①生活クラブ運動グループ協議会と協働して、地域協同社会づくりをすすめました。
- ②CCS の活動を通じて地域団体との連携は今後の課題です。